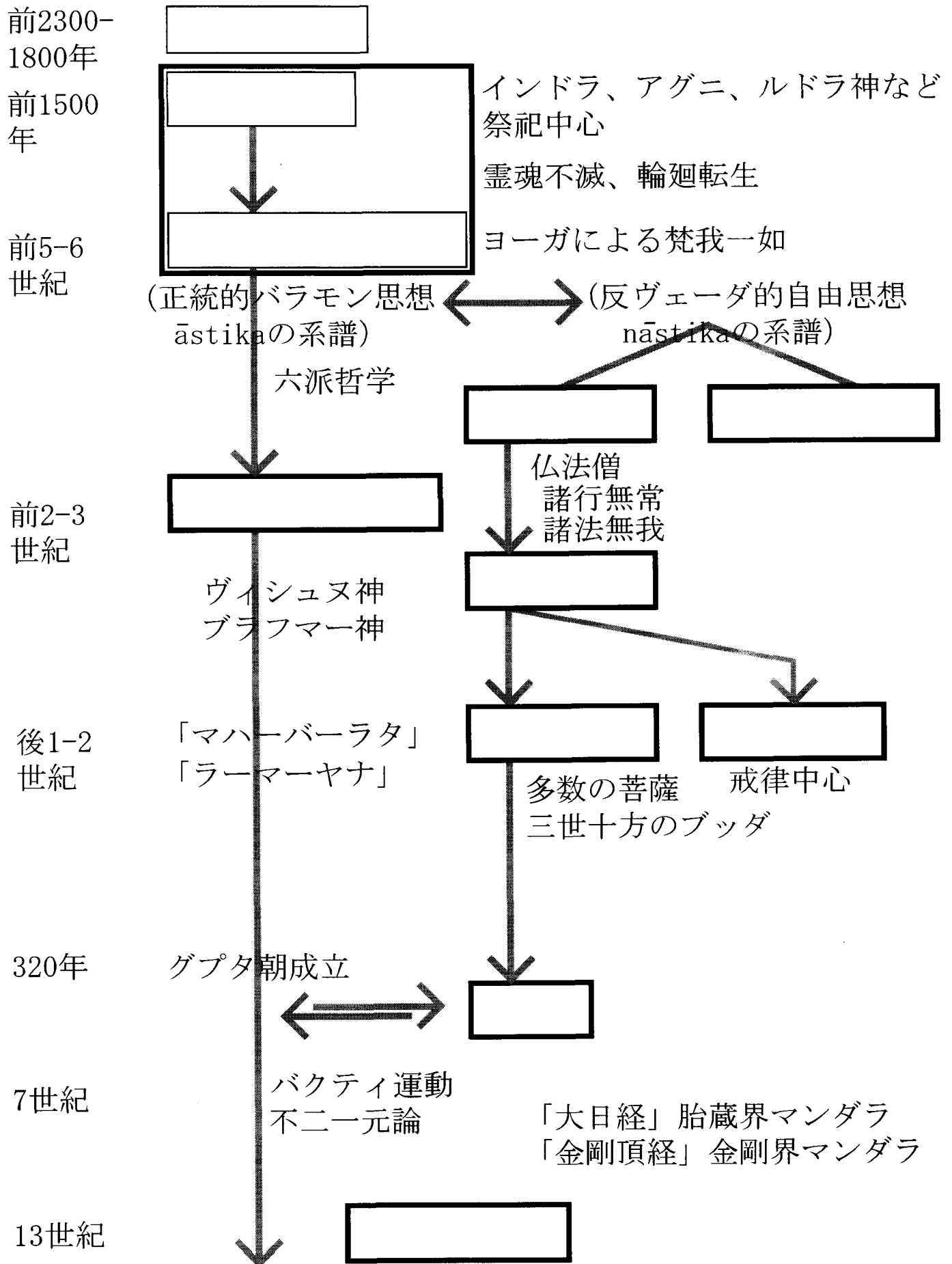


インドにおけるヒンドゥー教と仏教の発達



【宿題】

- ・大学のパソコンから以下にアクセス：

<http://www.tufts.ac.jp/common/library/local/online/ondb-j.html>

- ・ **Gale Virtual Reference Library**に接続

・ Basic Searchの枠に「Tantric Buddhism」と入力し検索。ヒットしたリストから以下のリンクをクリック：

Buddhism, Schools of: Tantric Ritual Schools of Buddhism [First Edition]. Alex Wayman. *Encyclopedia of Religion*. Ed. Lindsay Jones. Vol. 2. 2nd ed. Detroit: Macmillan Reference USA, 2005. p1214-1221.

(必要なら **View PDF pages** をクリックして PDF ページを表示し、プリントアウト)

・この論文の **Influence in Time and Place** の節 (p.1214-1215) を読み、8 世紀以降、密教 (Buddhist Tantrism) の歴史のなかでどのような発展があったのか、とくにインドからインド外にどのように展開したかに焦点をおいて、600 字以内の日本語に **要約** してください (翻訳である必要はない)。来週の授業時間中に提出。

- ・ 論文の中でてくる用語の解説：

Laṅkāvatāra Sūtra 『楞伽經』。大乘經典の一つ。5 世紀頃成立。

Śākyamuni 釈迦牟尼。釈尊、仏陀のこと。

Mahākaruṇāgarbha Maṇḍala 胎藏曼荼羅。真理の客体面 (慈悲) をあらわす。

Vajradhātu Maṇḍala 金剛界曼荼羅。真理の主体面 (智慧) をあらわす。

Durgatipariśodhana Tantra 『ドウルガティパリショードナ・タントラ』。密教經典の一つ。

Tattvasaṃgraha Tantra 『真実撰經』。密教經典の一つ。金剛頂經の初会 (しよえ) の部分に相当。7 世紀後半に南インドで基本形が成立。金剛界曼荼羅の典拠。

Guhyasamāja Tantra 『秘密集会タントラ』。インド後期密教の經典。8 世紀に原型が成立。

Śrī-Cakrasaṃvara Tantra 『チャクラサンヴァラ・タントラ』。インド後期密教の經典。チャクラサンヴァラ (勝樂尊) を本尊とする。

Buddhaguhya ブッダグヒヤ。8 世紀のインドの僧。大日經の注釈書を書いた。

the Tantric Nāgārjuna ナーガールジュナ。竜猛 (りゅうみょう)。7 世紀に活躍した密教の祖とされる人物。

Vajrabodhi 金剛智。7 世紀後半-8 世紀前半のインド出身の僧。ナーランダール寺で出家。インドネシア経由で中国に入り、唐代の中国に密教を定着させた。

Amoghavajra 不空。8 世紀の西域出身の僧。密教經典を多数翻訳。恵果 (けいか) の師。

Vairocanābhisambodhi 『大日經』。インド中期密教の經典。毘盧舍那仏 (Vairocana)、すなわち大日如来が教えを説く。胎藏曼荼羅の典拠。

"two Tantras" 両界曼荼羅 (金剛界曼荼羅と胎藏曼荼羅) の典拠である金剛頂經と大日經のこと。

- ・ 興味のある人は論文全編を読んだうえで、以下の論文も参考にしてください。

Buddhism, Schools of: Tantric Ritual Schools of Buddhism [Further Considerations]. Matthew T. Kapstein. *Encyclopedia of Religion*. Ed. Lindsay Jones. Vol. 2. 2nd ed. Detroit: Macmillan Reference USA, 2005. p1221-1222.